



今年2月に広島県で行われた中国四国大会に出場した本校チーム

本校では、平成22年度から部活動（運動・文化）の一種目としてフロアホッケーを導入した。当初は、特別支援学校でチーム競技の部活動が成り立つのかという不安が教師の側にあったが、生徒たちは生き生きとした表情で取り組み、現在に至っている。本校の部活動は、学習指導要領の「学校教育の一環」「責任感、連帯感の涵養」「地域の人々の協力・連携」を強く意識しながら取り組んできた。時には、生活が乱れがちな生徒、協調性に欠け自分勝手な行動をしがちな生徒もいたが、教職員の共通理解の下、共通の目標に向かって日々活動する中で徐々に改善されていった。また、本校主催のフロアホッケー交流大会「小国カップ」は、本年度

## フロアホッケーの部活動で生徒に自信

で第7回を数える。高等部の生徒が「総合的な学習の時間」の一環で準備や片付けなど運営側として終始活動し、地元小国だけでなく県内各地から参加いただいている。

活動は、平日3日の他、卒業生も参加できるよう月1回は日曜日にも行い、年間を通して九州大会や中国四国大会、県内の特別支援学校との学校対抗戦等に参加している。

これらの機会は、日々の練習で学んだことを校外で実践する貴重な場となっている。大会での結果や関係者からの技能や態度に対する高い評価が生徒たちの自信につながり、さらにその自信が日々の練習や学校生活全般への前向きな姿勢にもつながっている。そのような生徒の変容を目の当たりにし、われわれ教師は、部活動の意義や生徒の可能性をこれまで以上に強く感じるようになった。

今後ますます障がい者スポーツが注目される中、本校では今後も部活動を通して、学校生活をさらに充実させ、目指す生徒像である「明るく・仲よく・たくましく」を具現化していきたい。

（茶園浩志・熊本県立小国支援学校教頭）